

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

患者のための「家庭のような病院」

③1 富家病院 (埼玉県ふじみ野市)



埼玉県南東部に位置するふじみ野市は、東京のベッドタウンで、高齢化が進む。富家病院は重度慢性期医療や医療度の高いサービスを提供するため、特別養護老人ホームや高齢者専用賃貸住宅(高専賃)、在宅リハビリテーションセンターも展開している。

「されたい医療、されたい看護、されたい介護」——。富家隆樹理事長が掲げる理念だ。自分や家族が入院するとしたら、どのような病院が望ましいかを考えて環境を整えてほしい、と医師や職員に要望している。目指すは「家庭のような病院」づく

りだ。

ユニークな取り組みの一つが「ナラティブ・ホスピタル」。本館階段の壁一面に、患者や家族の写真が飾られている。職員らが写真を撮り、レイアウトしたもの。柔らかいスポットライトに照らされ、心癒やされる空間となっている。

富家理事長は「患者様のこれまでの人生を物語として紡ぎたい、そして私たちが物語の一つとして紡がれたい、そういう思いを持って患者様の入院生活にかかわっています」と説明する。

新館も患者本位の多様な工夫を施している。透



析室はベッド間が広く、車いすやストレッチャーから移動しやすくなっている。テレビは横になりながらの視聴でも疲れにくいように、アーム式を採用している。

デイケアセンターには、筋肉強化訓練も行えるようパワーリハビリテーション機器を置いた。ナースステーションのカウンターは低くし、車いすの患者が気軽に立ち寄れるようにした。

リハビリテーションは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士ら現在56人の専門スタッフが、土日の休日なく365日、起床から就寝までの生活に合わせて、在宅・社会への復帰の援助に至るリハビリ

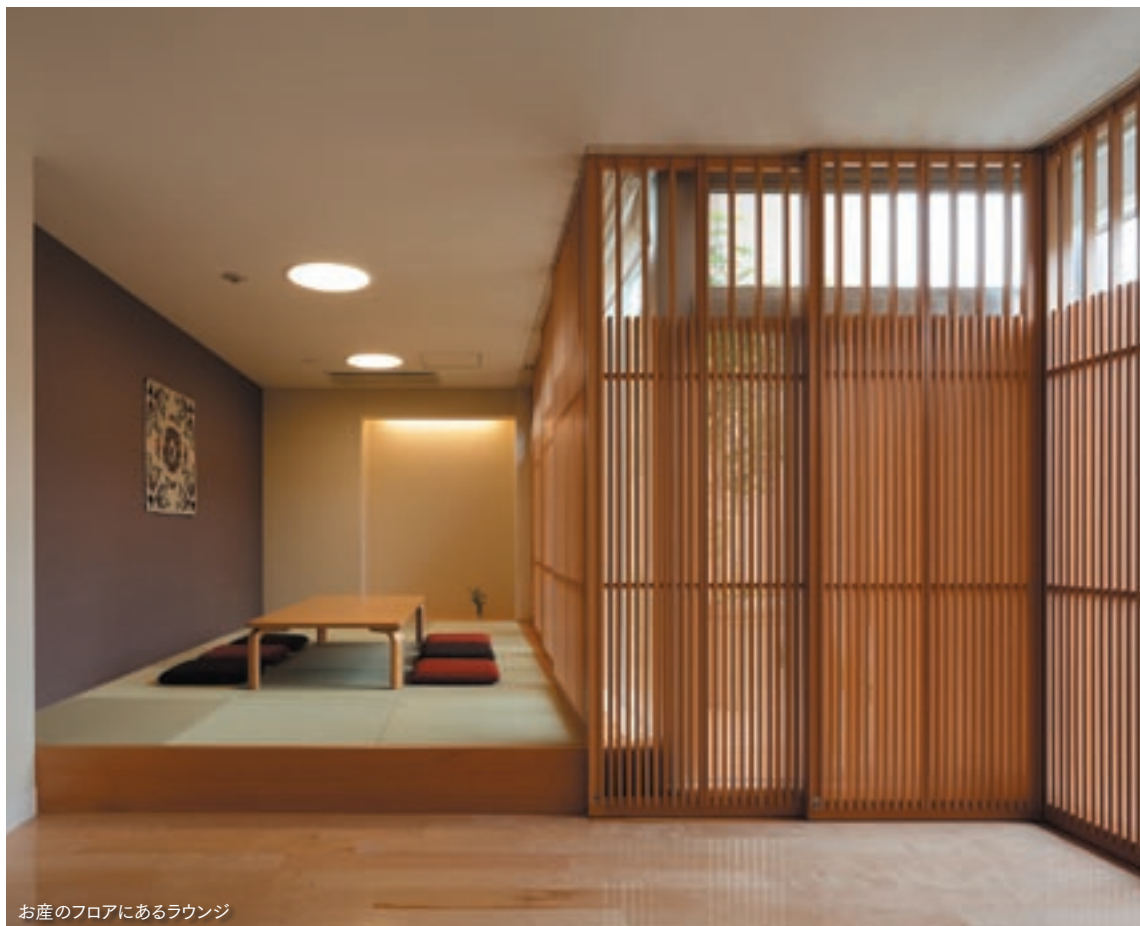
に取り組んでいる。

また、臨床心理士が心のケアのためアートセラピーを行っており、患者や家族が作った作品が廊下に飾られている。各所に花や樹木が置かれているのも大きな特徴だ。エコプラント(室内空気を浄化する植物)もあり、患者が植物の世話をすることでガーデニング・セラピーの効果を果たすベランダもある。

隣接地に2009年、高専賃を開設。何かあったらすぐに病院で診てもらえるため、半年ほどで全40室は満室となり、現在、増築工事が進んでいる。

「自分らしいお産」を支える自然な空間

③② 聖路加産科クリニック (東京都中央区)



お産のフロアにあるラウンジ

〈キリスト教の愛の心が／人の悩みを救うために働けば／苦しみは消えて、その人は生まれ変わったようになる／この偉大な愛の力を、だれもがすぐわかるように計画されてきた生きた有機体がこの病院である〉——。

聖路加国際病院の創設者、ルドルフ・トイスラーの言葉。その精神は今も受け継がれている。

現在は38の診療科を擁し、日本を代表する総合病院。中でも「お産」は病院の大きな柱として広く認知されている。記録が残る1957年以降、延べ5万9000人の赤ちゃんが生まれた。

2010年6月、聖路加のお産の歴史に新たな1頁が加わった。従来の本院女性総合診療部での出産に加え、聖路加産科クリニックの誕生だ。

どちらも病院の理念に基づき運営されているが、診療内容は異なる。クリニックはまるで助産院のようなお産ができるのが特徴だ。医療介入は必要不可欠なものに限り、できるだけ自然に近い分娩を目指す。母親と子供、家族が本来持つ力を見出し、その力をはぐくんでいく。

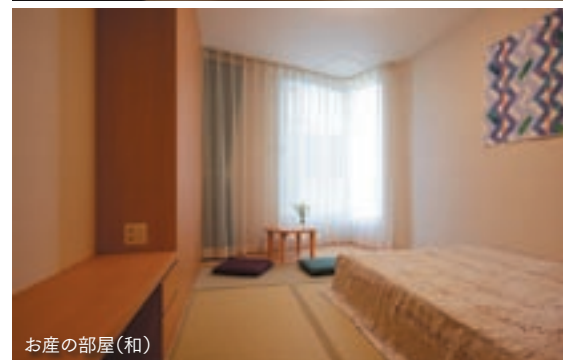
クリニックの環境は人の温かさを感じられる。緑・光・風が身近だ。ヨガやベビーマッサージのクラス



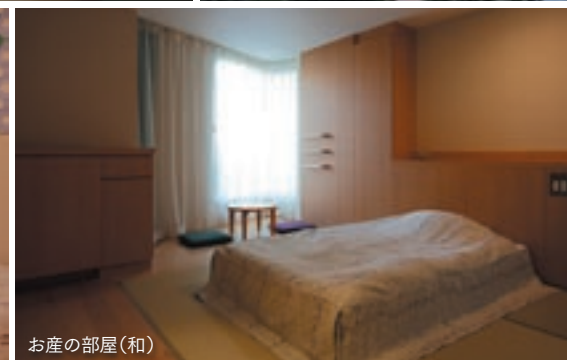
外来待合



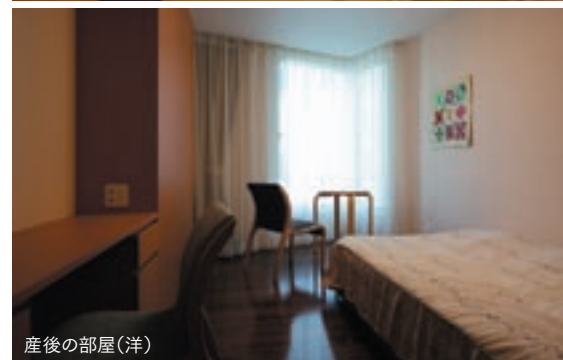
クリニックの外観



お産の部屋(和)



お産の部屋(和)



産後の部屋(洋)



ラウンジ越しに教会の姿が見える

を施設内で受講することも可能。

「自分の家で産むような感覚。気軽な感じで利用していただけるようにと心掛けて造りました。あくまでも肩の力を抜いて自然に利用していただくことがコンセプトです」(聖路加国際病院施設課・小原達矢氏)

クリニックの助産師は4～5人で一つのチームを形作る。妊婦にはそれぞれ担当のチームがつく。妊娠中から産後まで継続的にケアする仕組みだ。一度の妊婦健診に45分。出産の際は、もちろん、担当のチームが妊婦を支える。

待合室はあるものの、予約制で少人数を受け入れているため、待つことはまずない。入院は全室個室。和室と洋室から選べる。

LDR(陣痛・分娩・回復を同じ部屋で過ごす仕組み)は医療機関とは思えないしつらえ。個室にはバスルームや見舞客とお茶を飲むスペースもある。こちらも和室と洋室から選択。

食事は玄米と有機野菜を主体としたメニュー。産前産後のデリケートな体調を考慮している。

ほかの誰でもない、自分のお産を成し遂げようとする妊婦をクリニックは今日も待っている。